

もっと知りたい
ふるさと

40

「信州山の目」
に協賛して

千曲市内で循環型ウォーキングルートを開拓して、市民が親しんで歩けるコースをと検討を重ねてきました。

善光寺街道開設400年を記念して善光寺道を歩き、北陸新幹線が開業されるのを機に、木曾義仲・巴御前が北陸經由で上洛までの出世街道と想いを重ね、800年前のロマン、木曾義仲進軍路コースを組み合せた街道歩きを提案します。機会があつたら歩いてみてはいかがでしょうか。簡単にそれぞれのポイント

をお話します。

○善光寺道

善光寺道は、中山道洗馬宿から篠ノ井追分までの北国西往還と北国街道篠ノ井追分から善光寺宿までの19里半(80km)をいう。善光寺道の大部分を占める北国西往還は慶長19年(1614)に開設され、今年2014年は善光寺道開設400年の年である。宿場は、洗馬宿・郷原宿・村井宿・出川宿・松本宿・岡田宿・刈谷原宿・会田宿・乱橋宿・西条宿・青柳宿・麻績宿・桑原宿・稻荷山宿・篠ノ井追分宿・丹波島宿・善光寺宿の17宿がある。

道の開通で破壊されたとはいえ、街道の原形および史跡が多く残っている。

千曲市川西地区振興連絡協議会は平成19年から街道整備を続け快適に歩けるように取り組んでいる。

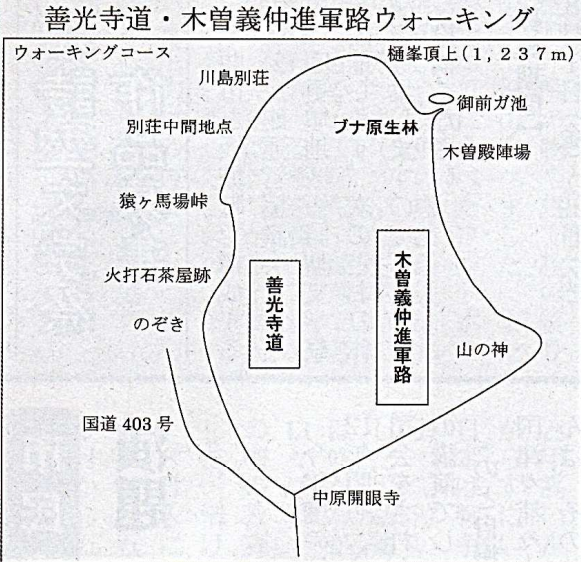
○木曾義仲進軍路

久寿2年(1155)源氏一族の内紛により、北関東地方に勢力を張っていた源義賢は、兄の源義朝に武蔵野国大蔵館を攻められ義朝の長男悪源太義平に討たれた。義朝の家臣斎藤実盛は2歳の駒王丸(義仲の幼名)が殺害されるに忍び難く、その母小枝御前と共に、信濃国の権守中原兼遠のもとに遁れさせ匿われた。駒王丸は現東筑摩郡朝日村の真言宗光輪寺で成長する。『吾妻鏡』によると、平氏追討を命じる以仁王の令旨は木曾義仲の叔父源行家により東国諸国の源氏にもたらされた。

この戦いで勝利を治め、こののち俱利伽羅峠、篠原の合戦と勝利を重ね、義仲は源行家を伴って入洛したが入洛後平家追討と都の治安を任せられるも期待が落胆に変わり支持は落ちた。やがて後白河院の要請を受けた頼朝軍の攻撃に遭い、最後は今井兼平と主従2騎のみとなり、粟津で終焉を迎えた。

この令旨を受け取った義仲は頼朝の挙兵を聞き、これに参じるために出陣した。平家物語では成長茂が、義仲追討

これらの歴史を背景に史跡を訪ねていざ出発しましょう。千曲市川西地区振興連絡協議会



ある。街道は林

に向かつて峠を上り、猿ヶ馬場峠までの区間

事務局長 山口 盛男



御前ガ池